

第60回理工学部学術講演会開催にあたって

第60回理工学部学術講演会が、平成28年12月3日に例年と同様に理工学部駿河台キャンパスの1号館を会場として開催されます。今年度は60回記念ということで、17の専門部会に加えて、研究所講演会として、特別セッション「理工学部における研究の社会実装—これまでとこれから—」が開催されます。また、例年と同様、学術賞受賞者による記念講演、昨年度のプロジェクト研究助成金ならびに応用科学研究助成金の成果報告も行われる予定で、今年も申込件数が件の講演数となる大規模な講演会になりました。今年度も昨年同様発表形式は、口頭発表(321件)とポスター発表(288件)で行われます。この発表形式は第50回理工学部学術講演会以来、続いているもので、今ではしっかり定着しており、どちらの形式でもその特色を生かした熱心な発表が行われると思います。特にポスター発表は、発表者と聴講者が直接議論を交わすことで、口頭発表とは一味違った経験になると思います。

最近では、本講演会は卒業研究や博士前期課程の大学院特別研究の中間発表という色合いが濃くなっています。その中で、学術講演会の役割として、専門分野が異なる教員・学生が一同に介して議論ができることが挙げられます。発表者は、異なる分野の方々から普段とは違う視点の質疑を受け、それに答えることで、自身の研究の意義・位置づけを改めて認識することができます。さらには、それが学際的に研究に取り組むきっかけにもなることでしょう。言うまでもなく、研究は自分だけのものではなく、その成果を他の人に知っていただき、理解していただき、批判、評価していただいてこそ価値あるものになります。その意味でもこの講演会は、発表する皆さんにとって、これからの学会発表や論文投稿の質を上げるためのたいへん貴重な機会です。本学術講演会をバネにして、新たなステップを踏み出していきたいと思います。と同時に、教員や博士後期課程の学生の皆さんの、最新の研究成果に関する発表が増え、より質の高い議論がなされることが期待されます。

また、オープンイノベーション、あるいは、共創的イノベーションといった言葉とともに、新しい価値の創出のみならず、その社会実装が叫ばれている昨今の社会状況をみますと、研究者同士で議論するだけでなく、研究成果を社会実装していくことも強く意識すべき時代になっていると思います。そこで、今年度は上述の特別セッションを企画しました。

理工学部は、研究大学としてさまざまな研究に積極的に取り組む姿勢を学部全体でサポートしています。その中で、理工学部学術講演会は、教職員には普段の研究・教育等の発表の場として、大学院及び学部の学生等には日頃の学習成果を十分に発揮する場として活用されており、理工学部の学術、技術並びに教育振興に役立っています。

最後に本学術講演会開催にあたり、実行委員会の先生方ならびに事務局の皆様方のご努力とご協力に感謝いたします。

理工学部学術講演会実行委員会委員長
宮崎 康行